

平成 26 年度学力充実プラン推進事業

知多市教育委員会

1 実践市町村名

知多市

2 事業概要

(1) 授業研究（有識者による実践指導）

愛知教育大学 数学教育講座 准教授 青山 和裕 氏による指導

- ・講演会「児童を中心とした授業を実現する指導法について」
- ・授業参観及び研究協議会「学校訪問における特設授業参観及び指導講評」
- ・講演会「今後の統計指導における重要点について」
- ・講演会「ノート指導と統計の指導について」

(2) 研究担当者による研究推進会議の開催

（※講演会と同日開催の研究推進会議は除く。）

第 1 回 平成 26 年 4 月 18 日（金）本事業説明と研究方針の策定

第 2 回 平成 26 年 5 月 12 日（月）研究推進会議

第 3 回 平成 26 年 5 月 26 日（月）研究推進会議

（平成 26 年 12 月 10 日（水）推進事業進捗状況現地調査）

第 4 回 平成 27 年 1 月 23 日（金）研究推進会議

第 5 回 平成 27 年 1 月 26 日（月）研究推進会議

第 6 回 平成 27 年 2 月 18 日（水）研究推進会議

3 事業成果

全国学力・学習状況調査（以下、「調査」という。）の結果分析から導かれた主な課題を解決するために、研究推進テーマを「児童の学力向上を目指した授業改善」、サブテーマを「ノート指導を中心にした授業展開の工夫を通して」とし、児童の学力向上を図る実践研究を行いました。主な取組の内容と成果は次のとおりです。

(1) めあてと振り返りを重視した「ノート指導の工夫と改善」

ノート指導を重視することで、授業の改善を進めました。黒板に掲げたホワイトボードに書かれた、本時のめあてを書くことから始まり、振り返りをまとめることでノートが終わるように、日常の国語と算数を中心に授業を構成しました。加えて、学び合いの充実を図るため、児童の思考過程が見てわかる整理された板書とノートを目指しました。



ノートをもとに考える児童

その結果、授業の中で、教員も児童も本時のめあてをより意識することができるようになりました。また、教員が板書計画を含めた授業計画を立て、児童がノートに丁寧に写すことによって、学習の方法や流れが見通せるようになり、学習に対して自信をもてる児童が増えました。



ノートをもとに話し合う児童

さらに、全国学力・学習状況調査によって、児童の聞き取りの力や自分の考えをまとめる力の弱さが明らかになっていましたが、ノートを有効に使うことで、考えを整理し、自信をもって発表する児童が増えるとともに、考えを比べ合うなど、表現の工夫を評価し合う児童の姿も見られるようになりました。

(2) 学びを生活に生かす「統計教育を重視した算数指導」



グラフを見比べる児童

調査の結果分析から、算数の主として活用に関するグラフや割合の課題に向けた取組に統計教育が適していると考え、知識や情報を実際の生活に生かす児童の育成を目指しました。単元構成を「習得」「活用」の2段階とし、児童の生活に密着した挑戦的な課題を設定するとともに、発表場面では、



ノートをもとに話し合う児童

「比較」「関連」「統合」を体験できるように、根拠を示した理由付けを意識させました。

その結果、学習したことを生活に生かせたという達成感と自己肯定感が児童のノートの振り返りに現れ、学習内容の定着度の向上が見られました。

また、課題解決にあたっては、自分の考えを表や資料と関連させたり、友達の考えと比較したりするなど、生活をよりよくするために学び合いながら解決する姿が見られました。

(3) 考えを伝え合い、深め合う「協働的な学びへの取組」

国語の主として活用に関わる、話す能力、聞く能力を高めるために、児童が友達とともに課題を解決することをめあてにした協働的な学びを取り入れ、自分の考えを再構築したり、新しい知識を導き出したりする実践を行いました。



観察を基に話し合う児童

キーワードを見つけ、自分の言葉で考えを説明した後、友達の考えを自分と比較しながら聞き取り、自分の考えを見つめ直すことができました。さらに、自分の考えや表現の根拠を示しながら、自分の言葉で理由付けを行った意見を交換することによって、考えを深め合うことができました。

(4) 授業力の向上を目指した「現職教育の交流」

教員の授業力向上を目指し、市の教員で組織されている教育研究会との連携を図るとともに、市内教員研修会の実施、市内他校の現職教育との交流を行うなど、相互に研鑽を積む機会を設けました。



研究協議を行っている教員

市教育研究会の組織である算数・数学研究部会、統計教育研究部会、及び若手教員授業研究会と連携し、研究授業を行うとともに、愛知教育大学准教授の青山和裕氏から指導を受け、それぞれの立場から授業の手法を精査し、授業力向上につなげました。さらに、市内他校の現職教育活動に参加することによって研修の機会を



統計を用いた授業研究

増やしたり、市内教員研修会で青山氏を招いた講演会を行った際には、参加できなかった教員のために講演内容をまとめた資料を各校に配付し紹介したりするなど、教員全体の授業力向上につながる取組を推進しました。

(5) 自己有用感を高める「家庭教育の推進と充実」



掲示されている友達のノート

児童の自己有用感や自己肯定感を高めるため、保護者が、児童のよさに気付き、褒め、認めることができるように、家庭教育の推進と充実を図りました。

その手法として、国語と算数の授業ノートをつールとして利用することとし、児童が、家庭でノートを保護者に開いて見せながら、学習した内容を伝えることで、学習意欲の高揚と、反復学習による学力向上を図りました。

保護者も、教員によるノートへの朱書きを参考に、声かけや、コメントの書き込みを行うなど、学習内容の定着を図りながら、児童の学習意欲を高めることに貢献できました。このような取組により、家庭での学習習慣を身に付ける勇気付けや励ましにもつながりました。さらに、保護者に褒められることで、児童の自己有用感や自己肯定感の高揚にもつながりました。

学校評価のアンケート結果では、授業や学校生活に積極的になり、自分に対して肯定的な考えをもつ児童が増えたという結果が確認されました。

4 今後の事業計画

本事業の目的は、日常の授業における継続的な取組により効果が期待できるものであることから、授業研究の内容について、情報の共有を深化させるとともに、授業の手法に一層の工夫と改善を図ることで、児童の学力向上につなげるものとします。